



## 株式会社テクノ菱和 2026年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答

開催日時：2025年12月9日(火) 13:00～14:00

出席者：代表取締役 社長執行役員	加藤 雅也
取締役上席執行役員 管理本部長	鈴木 俊夫
常務執行役員 CSR推進本部長兼経営企画室長	黒田 長憲
管理本部 経理部長	後藤 幸治

### Q1. 売上総利益率の下振れ見通しについて

質問：

今期通期の売上総利益率の見通しは22.4%ですが、上期の実績24.3%に対して低下する見込みです。この背景を教えてください。

回答（加藤）：

今期は期首時点での繰越工事残高が例年より多く、これにより上期における完工工事進捗率が高まりました。また、複数の大型工事案件の粗利が上期の利益に大きく寄与したことも要因です。下期は、これらの大型案件の完成に伴い利益率が落ち着くため、通期では22.4%を見込んでおります。

### Q2. 中期計画最終年度の経常利益目標について

質問：

今回、中期経営計画の数値目標を修正されましたが、最終年度である2026年度の経常利益が120億円と、今期見通しの132億円から下がる計画となっています。この背景について教えてください。

回答（加藤）：

今期は、単独で100億円を超える大型物件2件が完成し、その他にも高利益率の物件が業績に寄与した結果、通期の経常利益は当初計画を上振れる見込みです。

来期は、こうした特定の大型案件による一時的な上振れ要因がなくなることを勘案し、結果として今期の経常利益よりは下がる目標値（120億円）を設定しました。

### Q3. 今後の高利益率物件の受注見込みについて

質問：

今期は利益率の高い物件が完成し、来期は少し落ち着くという説明でしたが、今後も今期完成したような粗利水準の物件の受注は見込めますか。

回答（加藤）：

今後の受注環境についてですが、現在、建設・設備業界全体の受注環境は引き続き好調に推移しております。この状況が続ければ、一定の利益水準は確保できると認識しています。

#### **Q 4. 中間決算数値の捉え方について**

**質問:**

今回の中間決算の数値は、通期見通しを上方修正した後の着地としてどのように捉えていますか。

**回答（加藤）：**

期初の段階で見込んでいた中間決算の数値と比較して、実際には上振れして着地しました。

通期見通しに向けて、受注金額、利益率ともに順調に進捗していると考えています。

#### **Q 5. 業績予想の方針転換と上方修正の理由について**

**質問:**

資料に「24年3月期から業績予想の方針を『慎重、保守的』から『精緻、積極的』に転換し、今後も継続する」と記載があります。それでも期中に上方修正するほど、足元の要因が想定以上に良くなつたという理解でよろしいでしょうか。

**回答（加藤）：**

当社は数年前まで非常に保守的な通期予測を立てておりましたが、2024年3月期からは、より実態に即した「精緻な」見通しを立てる方針に変更しております。その新しい方針に基づいた見通しに対しても、今期は受注状況や工事の進捗が想定を上回ったため、結果として期中の上方修正に至りました。

以 上